



10.2

2030年までに、年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位その他の状況に関わりなく、全ての人々の能力強化及び社会的、経済的及び政治的な包含を促進する。

11.2

2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。

4.5

2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子供など、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。

田中 佑人
松川 綾子

附属病院
障がい者歯科

障害者スポーツイベントを通じた ノーマライゼーション社会の実現

私たちは、障害のある人とない人との相互理解がスポーツを通じて促進される可能性があるという観点でこれに取り組んでいます。我々歯科医療従事者が、障害者スポーツのイベントに参加することで、障害のある人に歯科医療の重要性を伝える機会になることがあります。あるいは、一度歯科医療従事者とスポーツを通じて信頼関係を構築した障害者が、スポーツを通じて知り合った別の障害者と、歯科医療について情報を共有することが促進される可能性があるといわれています。こうした障害者スポーツの普及活動から発生した情報のつながりが、結果として、歯科医療のノーマライゼーションの実現に貢献できる可能性があるかと期待しています。



message

スポーツを通して、障害のある人と 障害のない人が共に生きる「ノーマライゼーション社会」の実現を目指したいと考えています。